2015年
(平成27年)
7月
第144号

青い鳥

支える心とおもいやり

「利用者本位」という原点

兵庫県社会福祉事業団
常務理事兼事務局長
北村　悦伸

この四月に常務理事兼事務局長に就任しました。よろしくお願いいたします。

私たち事業団の職員倫理綱領は、その冒頭に「人権の擁護」を掲げ、「利用者一人ひとりをかけがえのない存在として大切にします」と謳っています。兵庫県社会福祉事業団が、何よりも利用者本位の姿勢で運営にあたるとの宣言です。その厳粛な誓いを受けとめ、どう現実のものとしていくか。私たちは日々、その責任と専門的役割が問われています。

さて、事業団は昨年、設立五十周年を迎えました。この半世紀の歴史は、我が国の社会福祉施策の展開と変遷に重なるものでした。特に、介護保険法による「措置」から「契約」への大転換は、その後、事業団への県立施設の無償譲渡と自主運営化に繋がりました。

そして今回、再び大きな地殻変動が起こりつつあります。まず、少子高齢化と人口減少のもとでの経済環境の好転が、介護福祉医療人材の確保、定着の困難さを顕在化させています。人材は、最も重要な経営資源であり、中長期的にも事業団運営の基盤です。二つ目は、「社会福祉法人制度改革」の施行です。新会計基準の導入に続いて、法人運営の変革を迫る内容です。そして、介護報酬の改定がありました。単なる減額改定ではなく、様々な加算措置によって、高度な介護を要する利用者の確保を誘導するものです。

迫りくる時代の変容に、どう対処するのか。老朽化した施設の改修・改築や淡路での新施設整備などの課題もあります。倫理綱領に示された「利用者本位」という原点を堅持しつつ、柔軟で成熟した対応を図っていく必要があります。ともに歩んでいきましょう。

目　次

1 …… 「利用者本位」という原点
兵庫県社会福祉事業団　常務理事兼事務局長
北村 悦伸
2 …… 事務局だより/平成26年度決算報告
3 …… 平成26年度事業報告
4 …… 平成27年度 新規職員集合研修の実施/報告
フレッシュマン紹介／人の動き
5 …… シリーズ「次長・課長に聞く」(第10回)
出石精和園課長(地域支援担当)
柴垣 重美
シリーズ「事業団事業紹介」(第23回)
三木精愛園
シリーズ「ペンりれい」
6〜8 ‥施設だより／あとがき

発行　社会福祉法人 兵庫県社会福祉事業団
神戸市西区曙町1070
TEL (078)929-5655　FAX (078)929-5688
電子メール info@hwc.or.jp　ホームページ http://www.hwc.or.jp/

事務局だより

評議員会・理事会概要

五月二十九日（金）に第二十八回評議員会及び第一七五回理事会が開催されました。承認された議案等内容は次のとおりです。

第二十八回評議員会

議題
一　平成二十六年度事業報告について
二　平成二十六年度決算について
報告事項
（一）理事長職務代理者の指名について
（二）平成二十六年度事故・事件、苦情について
（三）平成二十六年度県・市指導監査指摘事項への対応について
（四）寄附の状況について

第一七五回理事会

議題
一　平成二十六年度事業報告について
二　平成二十六年度決算について
三　評議員の選任について
報告事項
（一）理事長職務代理者の指名について
（二）平成二十六年度事故・事件、苦情について
（三）平成二十六年度県・市指導監査指摘事項への対応について
（四）寄附の状況について

平成26年度　決　算

財　産　目　録

一般会計総括　　平成27年3月31日現在　　（単位：円）

資産・負債の内訳		金　額	
Ⅰ　資産の部			
1．流動資産		4,375,761,601	
2．固定資産		14,745,250,660	
資産合計			19,121,012,261
Ⅱ　負債の部			
1．流動負債		2,111,291,803	
2．固定負債		1,619,287,466	
負債合計			3,730,579,269
差引純資産			15,390,432,992

貸　借　対　照　表

（会計区分名）一般会計総括　　平成27年3月31日現在　　（単位：円）

資産の部

大	中	小	当年度末	前年度末	増　減
流動資産			4,375,761,601	3,564,484,298	811,277,303
固定資産			14,745,250,660	15,187,327,085	△442,076,425
資産の部合計			19,121,012,261	18,751,811,383	369,200,878

負債の部

大	中	小	当年度末	前年度末	増　減
流動負債			2,111,291,803	2,146,129,238	△34,837,435
固定負債			1,619,287,466	1,646,258,324	△26,970,858
負債の部合計			3,730,579,269	3,792,387,562	△61,808,293
純資産の部					
基本金			11,000,000	11,000,000	0
国庫補助金等特別積立金			8,423,468,385	8,636,558,864	△213,090,479
その他の積立金			3,297,957,946	3,239,566,946	58,391,000
次期繰越活動増減差額			3,658,006,661	3,072,298,011	585,708,650
（うち当期活動増減差額）			573,041,548	474,664,847	98,376,701
純資産の部合計			15,390,432,992	14,959,423,821	431,009,171
負債及び純資産の部合計			19,121,012,261	18,751,811,383	369,200,878

事業活動計算書

（会計区分名）一般会計総括　　（単位：円）

科　目		決算額
サービス活動増減の部	サービス活動収益(1)	17,542,360,355
	サービス活動費用(2)	16,938,633,666
	サービス活動増減差額(3)＝(1)-(2)	603,726,689
サービス活動外増減の部	サービス活動外収益(4)	45,210,498
	サービス活動外費用(5)	24,474,997
	サービス活動外増減差額(6)＝(4)-(5)	20,735,501
経常増減差額(7)＝(3)+(6)		624,462,190
特別増減の部	特別収益計(8)	168,678,106
	特別費用計(9)	220,098,748
	特別増減差額(10)＝(8)-(9)	△51,420,642
当期活動増減差額(11)＝(7)+(10)		573,041,548
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)	3,072,298,011
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	3,645,339,559
	基本金取崩額(14)	0
	その他の積立金取崩額(15)	256,824,102
	その他の積立金積立額(16)	244,157,000
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	3,658,006,661

資金収支計算書

（会計区分名）一般会計総括　　（単位：円）

科　目		決算額
事業活動による収支	事業活動収入(1)	17,587,487,675
	事業活動支出(2)	16,470,078,474
	事業活動資金収支差額(3)＝(1)-(2)	1,117,409,201
施設整備等による収支	施設整備等収入(4)	165,673,000
	施設整備等支出(5)	185,350,754
	施設整備等資金収支差額(6)＝(4)-(5)	△19,677,754
その他の活動による収支	その他の活動収入(7)	257,374,102
	その他の活動支出(8)	376,862,780
	その他の活動資金収支差額(9)＝(7)-(8)	△119,488,678
予備費支出(10)		0
当期資金収支差額合計(11)＝(3)+(6)+(9)-(10)		978,242,769

前期末支払資金残高(12)	1,799,461,191
当期末支払資金残高(11)+(12)	2,777,703,960

各計算書は
（自）平成26年4月1日～（至）平成27年3月31日

平成二十六年度事業報告

1　利用者本位のサービスの提供

(1)　利用者本位で質の高いサービスの提供

ア　施設機能の充実

①　障害福祉サービス制度改正への対応

②　高齢・重度化に対応した支援及び居住環境の改善

③　障害福祉サービス訓練系事業における利用定員の見直し

④　高齢福祉サービス制度改正への対応

⑤　ユニットケアによる生活の質の向上、生きがいづくりの推進

イ　利用者の人権と個人の尊厳に配慮したサービスの提供

①　人権の擁護

②　サービス評価の実施

③　利用者個別支援の実践

ウ　利用者にとって安全で安心なサービスの提供

①　リスクマネジメント体制の推進

②　特別養護老人ホームにおける職員配置の見直し

③　リハ医療と高度専門医療の推進

④　被虐待児、発達障害・強度行動障害児者等への支援

⑤　専門スーパーバイザー等による指導研修事業の実施

⑥　施設看護指導専門員による施設等看護機能強化事業の実施

⑦　認定看護師、介護福祉士等の計画的育成、資格取得の推進

⑧　認知症介護に係る専門人材の育成

⑨　専門職種連絡会の実施

(2)　障害者の自立支援と障害者雇用の推進

ア　障害者の自立支援の推進

①　障害者の就労や地域生活を支援するための拠点事業の推進

②　支援ニーズの高い事例への専門的就労支援

③　県立障害者高等技術専門学院との連携

④　障害者の芸術文化活動支援事業の推進

イ　障害者雇用の推進

①　就労継続支援(A型・B型)事業の推進

②　企業との連携による施設外就労訓練等の実施

③　事業団における障害者雇用の推進

2　地域で支え合う仕組みづくり

(1)　地域包括ケアシステムへの取り組み

ア　地域で安全・安心に暮らすことのできるサービスの提供

①　地域リハビリテーション支援体制の推進

②　総合リハ地域ケア・リハビリテーション支援センターにおける相談支援

③　障害児者施設における相談支援事業の推進

④　地域生活支援事業の実施

⑤　介助犬及び聴導犬訓練・認定事業の実施

⑥　障害者グループホーム等地域生活支援の推進

⑦　居宅サービス事業等の実施による地域包括ケアの推進

⑧　地域包括支援センター等の運営

(2)　地域の福祉人材の育成支援

ア　地域の福祉人材の育成

①　講師派遣制度(人材バンク)の推進

②　地域福祉人材の育成のための研修実施

イ　研修機会等の地域へのオープン化

①　職員研究・実践等発表大会のオープン化

(3)　地域に開かれた施設運営

ア　施設機能の地域への提供

①　リハ医療・福祉に関する公開セミナー・福祉教育等の実施

②　地域交流行事等の開催

③　施設運営協議会機能の充実・強化

イ　災害時等における地域防災拠点の構築

①　地域防災拠点体制の整備

3　医療と福祉の連携による事業推進

(1)　医療・福祉の連携事業の実施

ア　高次脳機能障害、ターミナルケア等に関する医療・福祉の連携

①　高次脳機能障害の支援体制の確立

②　地域医療との連携によるターミナルケア(看取り)の実践

イ　認知症に関する医療・地域ケアの先導的展開

①　認知症高齢者地域ケアの実践・研究等の実施

②　認知症対応型グループホーム、認知症対応型デイサービス事業の実施

ウ　音楽療法・園芸療法等の実践

①　音楽療法士・園芸療法士による療法の研究と実践

エ　セラピスト等医療専門機能を活用した事業の推進

①　セラピストと連携したサービスの提供

(2)　リハ医療・福祉に関する専門的情報の発信

ア　情報発信機能の強化

①　事業団広報戦略の推進

イ　専門情報の発信

①　障害者スポーツの振興

②　「産・学・官」や「医・工」連携の共同研究による製品化・実用化の推進

③　研究開発や研究成果を取り入れた研修・相談・展示機能等の充実

④　発達障害・被虐待児などに関する専門機関への指導・助言

⑤　事業団実践・研究紀要の発行

(3)　新たな課題への挑戦

ア　子どもの睡眠障害治療の実践・定着

①　治療プログラムの研究・実践及び臨床結果の情報発信

イ　在宅精神障害者への地域生活支援機能の拡充

①　精神障害者の支援技術の習得

ウ　その他新たな課題への挑戦

①　認知症疾患医療センターの運営

②　こども発達支援センターの運営

③　ロボットリハビリテーションセンターの運営

(4)　記念事業の実施

①　事業団設立50周年記念事業の実施

4　人材育成と働きがいのある職場づくり

(1)　人材の確保・育成

ア　自律型組織を担う人材の育成

①　職員研修の効果的な実施

イ　魅力ある病院づくりによる医師・看護師・セラピストの確保・育成

①　医師確保対策の実施

②　看護師・セラピスト確保対策の実施

(2)　人事・組織マネジメントの強化

ア　ガバナンスの推進

①　ガバナンス計画の推進

②　内部監査と外部監査の実施

③　情報公開・情報提供による事業団経営の公正・透明化

④　メンタルヘルス相談体制の構築

⑤　新経営10か年計画「第3期実施計画」の策定

⑥　職員提案・理事長懇談会の実施

イ　職員配置体制の整備

①　施設職職員制度の実施等

5　経営基盤の安定・強化

(1)　経営基盤の確立

ア　堅実な経営

①　建設費積立金等の確保

②　事業団経費削減大作戦の実施

③　障害・高齢施設における請求事務の適正化・効率化の推進

イ　自立した経営

①　運転資金の収支の安定化

②　経営目標の設定と評価の明確化

ウ　計画的な施設整備の実施

①　赤穂精華園授産寮建て替えに伴う検討の実施

②　のぞみの家の大規模改修の実施

③　旧県立淡路病院跡地の福祉施設の整備検討

(2)　財務管理の強化

①　経営の適正化・効率化

②　財務管理・医事業務の人材育成

(3)　主な施設の経営目標

ア　自主経営(事業団立)施設

①　障害児者施設等における利用率の維持・向上

②　高齢者施設における稼働率の維持・向上

③　浜坂温泉保養荘の利用者確保対策の推進

イ　県等の指定管理による政策施設

①　病院経営計画の推進

②　県との協働による県施策の先導的役割の実践

自律した職員を目指して!

平成二十七年度 新規職員集合研修

今年度の新規職員集合研修は、四月～六月にかけて浜坂温泉保養荘にて実施し、正規職員・非正規職員を対象に計一八五名が受講しました。

研修では、事業団の組織・事業計画・諸規則等の概要、社会人として必要な接遇の基本的知識等の講義及び演習、他施設他職種とのグループワークを通じて、事業団職員としての自覚を深めました。また、座談会では常務理事や施設長との意見交換をはじめ、各自の抱負を語り合い新規職員同士の連帯感を培いました。

今後、新規職員は、自主的・自律的に行動できる職員をめざして、各職場において日々の業務に励みますので、関係の皆様は、ご指導、ご助言をよろしくお願いします。

新規職員研修報告

リハビリテーション中央病院 看護部看護師 永嶺 貴志

研修では、職種によって違う視点や意見があることを知りました。グループワークで、同じ目標に向かって取り組むためのチームワークの大切さと、それぞれの役割を遂行することの重要性を理解できました。様々な職種と交流することで他職種との信頼関係を構築することができ、実りのある研修になりました。

西播磨総合リハビリテーションセンター 西播磨病院リハビリ療法部 作業療法士 三木 朋子

事業団の取り組みを知ることができ、事業団の目標実現に対する熱意を感じました。また、社会人としての基礎知識やチームワークを実践的に学ぶ中で、幅広い視点で積極的に役割を果たす重要性を認識しました。本研修は、様々な職種の方と共に協働することで、医療・福祉の繋がりを実感することができた有意義な研修でした。

人の動き

おつかれさまでした

○平成二十七年四月三十日付退職
▼赤穂精華園
児童支援課支援員・**田中麻理子**
○平成二十七年五月三十一日付退職
▼総合リハビリテーションセンター
福祉管理部福祉第一課支援員・**楠謙一郎**、中央病院リハビリ療法部理学療法科理学療法士・**後給鈴菜**
▼赤穂精華園
成人支援第二課支援員・**大原佑太**
○平成二十七年六月三十日付退職
▼総合リハビリテーションセンター
中央病院看護部看護師長補佐・**小原歩**、同看護部看護師・**藤井恵美**、同・**増田智美**、同・**田中俊輝**
▼西播磨総合リハビリテーションセンター
西播磨病院看護部看護師・**宮崎由加**
▼赤穂精華園
総務課主事・**中島佑太郎**

気分新たにご活躍ください

○平成二十七年七月一日付転任
▼事務局
参事兼赤穂精華園長・**松葉登志弘**（赤穂精華園長）、参事兼総合リハビリテーションセンター自立生活訓練部長・自立生活訓練センター所長・**おおぞらのいえ**所長・**謝世業**（9級昇任・総合リハビリテーションセンター自立生活訓練部長兼自立生活訓練センター所長・**おおぞらのいえ**所長）、参事兼丹寿荘所長・**川見和彦**（9級昇任・丹寿荘所長）

よろしくお願いします

○平成二十七年六月一日付採用
▼総合リハビリテーションセンター
福祉管理部福祉第一課支援員・**谷渕徹**、福祉のまちづくり研究所家庭介護・リハビリ研修センター課開発指導員・**安岡淳**、中央病院看護部看護師・**川勝望民**
▼出石精和園
成人支援第一課支援員・**奥田真弓**、成人支援第二課支援員・**富和知行**、同・**森田芳加**
▼五色精光園
総務課主事・**雨谷豊**、成人支援課支援員・**西垣慎二**
▼赤穂精華園
成人支援第二課支援員・**小倉隼也**
▼三木精愛園
支援課支援員・**村尾英享**
▼朝陽ケ丘荘
支援課支援員・**加藤雅弘**
▼たじま荘
支援課支援員・**上田良子**
▼丹寿荘
支援課支援員・**上田良介**
▼洲本市五色健康福祉総合センター
五色・サルビアホール支援課支援員・**藤野康介**
○平成二十七年七月一日付採用
▼総合リハビリテーションセンター
中央病院診療部リウマチ科部長兼内科部長・**中村武**

フレッシュマン紹介 宜しくお願いします

事務局総務部 人事管理課 主事 井上 大暉

この四月から事務局総務部人事管理課に主事として配属され、早三ヶ月が経ちました。最初は、緊張と不安で戸惑うことばかりでしたが、先輩方の指導もあり、ようやく職場の雰囲気にも慣れてきたところです。まだまだ未熟ですが、初心を忘れず、向上心を持ち続け、日々頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

総合リハビリテーションセンター 中央病院看護部看護師 佐用 美沙貴

入職してから三ヶ月が経ちましたが、一日が過ぎるのがとても早く、毎日が学びと緊張の連続でした。初めてのことばかりで戸惑うこともありますが、先輩看護師から手厚い指導を受けながら日々の業務に取り組んでいます。これからも、患者様に寄り添い安心を提供できる看護師を目指し、自己研鑽に努めていきたいです。

ご結婚おめでとうございます

～末永くお幸せに～

●平成二十七年三月一日
出石精和園 支援員 山本 千真さん（旧姓 今井）

●平成二十七年四月二十五日
出石精和園 支援員 守山 洋輔さん
出石精和園 支援員 守山 幸子さん（旧姓 北村）

シリーズ

次長・課長に聞く「利用者本位のサービス提供への取り組み」

第10回

出石精和園
課長（地域支援担当）
柴垣　重美

出石精和園では、相談支援センター、共同生活援助事業所、多機能型事業所ＲａｋｕＲａｋｕの三つの地域支援関連事業を実施しています。

相談支援センターでは、但馬地域全域で障害者計画相談、障害児相談支援を実施するとともに、二市二町の委託相談事業を受託し地域の障害者や保護者の皆さんの相談に、助言や地域資源の活用など本人に必要なサービス等の情報を提供しています。ご本人の気持ちを大切に丁寧なアセスメントにより利用者のニーズを引き出すことで利用者本位のサービスの提供を行っています。

共同生活援助では、現在七つのグループホームで四十五名の利用者が生活しており、世話人による家庭的な支援を行っています。また、夜間世話人の配置に取り組み、現在五つのホームで夜間世話人による支援体制が整いました。看護師による利用者の健康管理を行い重度化、高齢化に対応した安心安全な住処の提供に努めています。

多機能型事業所ＲａｋｕＲａｋｕは、就労移行支援事業、就労継続支援Ａ型事業、就労継続支援Ｂ型事業の三事業を実施しています。楽々庵やらくらくベーカリーの店舗、委託作業など、様々な作業を提供し、障害者のディーセントワークの実現を目指しています。

相談支援センター、共同生活援助事業、多機能型事業所ＲａｋｕＲａｋｕ各事業が情報を発信し、共有、連携して、利用者への最善のサービスの提供を目指していきます。

ペンりれい

↑子どもたちの愛車です

「親ばか」

小野起生園
日置　健治

「ペンりれい・・・」、何を書こうかと考える。ふと思い浮かぶのは子どもの顔。今の生活の中心にいるのは三人の子どもたちである。上の子は幼稚園に通い来年からは小学生となる。下の子はようやく言葉が出始めたくらい。毎日が、お祭りのように騒がしく過ぎていく。ほとんど自分のための時間などない。あれほど行っていた釣りにもほとんど行かなくなり、趣味といえるものもなくなっていった。それほどに子どもが中心となっている自分に気づかされ驚く。しかし、それが嫌ではなく、家に帰り子どもたちの喜んでくれる姿に、とても癒やされる自分がいる。そして、子どもからもらうものは〝癒やし〟だけではない。言うことを聞かない子どもには怒りを感じ叱る。できなかったことができるようになった子どもには喜びを感じ達成感をともに得る。仕事に行こうとしているときに泣いて嫌がる子どもからは、何とも言えない悲しさも感じる。そうやって喜怒哀楽を子どもたちと感じながら、子どもの成長を楽しんでいる。

先日、ついに子どもが補助輪なしの自転車に乗れるようになった。転けるのを怖がり、なかなか自分でこごうとしなかった娘。そのことにいらいらしていた自分を何とか戒めながら、子どもが乗れるようになるまで自転車を押して走った。子どもが自分だけで自転車に乗れるようになった瞬間は本当に感動し、子どもより先に妻に「乗れた」と報告してしまったほどである。こんな経験をさせてくれる子どもたちと今日もお祭り騒ぎを繰り広げて楽しんでいる。

次回は、丹南精明園
津路　俊之さんです。

シリーズ

事業団事業紹介　第23回

障害者就業・生活支援センター

三木精愛園

当園は平成二十二年四月一日に北播磨障害者就業・生活支援センターを開設して、六年目になります。就職を希望する障害のある方、就職した方や離職のおそれがある方に対し、職業生活における自立を図ることを目的に七名で支援にあたっています。当初は相談をどのように取れば良いのか、ハローワークや特別支援学校、障害者支援施設等との連携はうまくいくかなど不安でした。現在では登録者二〇五名、実習一二五件、就職一二〇件の支援をとおして、北播磨障害者（児）地域自立支援協議会の事務局や、関係機関や地域住民から依頼を受けて講師活動もしています。今年四月からは、職場定着を専門に支援する主任職場定着支援担当者も配置（全国二十か所）されています。これからも、障害のある方に働いて幸せになってもらい、地域に必要とされるセンターを目指したいと思っています。

施設だより

平成二十七年度 家族会総会を開催

洲本市五色健康福祉総合センター

四月二十五日(土)に平成二十七年度の家族会総会を開催し、大勢のご家族に参加していただきました。今年度は利用者に関係の深い介護報酬改定の説明も行い、活気のある総会となりました。

総会の後にはご家族、利用者がともに楽しめる企画として地元の吹奏楽団をお招きし、生演奏で楽しいひとときを過ごしました。

農業就労サポーター養成研修を開催

職業能力開発施設

当課では二年前から淡路において、農業分野における就労実習(訓練)機会の拡大に向け、農業就労サポーター養成研修を展開しています。今年度は丹波地域でも同事業を実施することとなり、去る四月二十七日(月)、農学博士の豊田准教授を講師に研修会を開催しました。六月には丹波丹ファームと丹寿荘の協力を得ながら、氷上特別支援学校生を迎えて農業実習を企画し、農業就労サポーターの養成実習を行いました。

赤穂精華園祭 バザーに参加しました

あけぼのの家

五月十日(日)、赤穂精華園祭にて当施設利用者二名と参加しました。建てかえ後初めてということもあり、今までとは違うレイアウトで新鮮な気持ちで販売作業に取り組めました。利用者の方も普段以上の力を楽しみながら出し切って頑張っていました。このような経験を就労に活かしてもらえるように支援していきたいと思います。

保護者会の開催

おおぞらのいえ

二十六年度利用者満足度調査の意見を踏まえ、二十七年度から児童発達支援事業所保護者会を開催することにしました。学習会では小学校における支援について学び、情報交換では参加者が現在に至るまでの子育ての悩みや、気分転換の方法などについて語りました。和やかな雰囲気の中、話題も笑いも尽きませんでした。今後も定期的な開催を企画していきます。

第七回 障害者スポーツ交流館杯 吹矢競技大会

障害者スポーツ交流館

五月三十一日(日)、「第七回障害者スポーツ交流館杯 吹矢競技大会」を実施しました。「吹矢??」と思われる方も多いと思いますが、今吹矢がブームなのです。日本全国より過去最多七十名の参加者を迎え、十mの部と八mの部に分かれて競技が行われました。集中力の勝負といっても過言ではなく、暑い中ではありましたが、皆さん熱心に取組まれていました。皆さんも一度、吹矢にチャレンジしてみてはいかがですか。詳しくは「障害者スポーツ交流館」までお問合せください。

万寿寄席を開催

万寿の家

万寿の家では、昨年より落語家さんをお招きし、万寿寄席を開催しています。実力派の本格落語が万寿の家で楽しめるとあって、開演前から、利用者はワクワクドキドキ。落語家さんが講座に上がると拍手で歓迎し、噺が始まると聴き入り、笑顔と笑い声がこぼれていました。終演後、利用者からは「おもしろかった」「また来て欲しい」と大好評です。こういう機会を与えていただいたご家族に感謝、感謝です。

おゆみ男子棟お楽しみ会

丹南精明園

利用者・家族・職員の総勢五十名を超える大人数で食事会を実施しました。残念ながら雨が降っていたため、外でゆっくりと食べることはできませんでしたが、カレーやフレンチトーストなどの料理はどれも美味しくできあがり、とても好評でした。ご協力していただいた皆様ありがとうございました。

平成二十六年度 研究実践発表会を開催

福祉のまちづくり研究所

「平成二十六年度研究実践発表会」を六月五日(金)に開催し、平成二十六年度終了テーマを中心に四つの研究実践報告並びに四つの成果物展示を行いました。当日は五十八名の参加があり、展示コーナーでは研究成果をひと目見ようと人の輪ができ、発表についても熱心な質問を頂きました。この発表会で得た貴重なご意見を今後の研究に活かしていきたいと思います。

家族交流会開催

あわじ荘

五月二十三日(土)、あわじ荘では利用者とご家族、ご家族同士の交流を図るため、家族交流会を開催しました。

今回の交流会では、ボランティアグループ「琴成会」による大正琴の演奏を行い、美しい音色に聞き惚れました。

家族そろっての昼食では、特製弁当に舌鼓を打たれ、笑顔溢れる楽しい時間を過ごされました。

オレンジカフェひだまりを開催

朝陽ケ丘荘

六月十一日(木)、出張型カフェとして、地元平福地区にある古民家カフェ「瓜生原家」を貸し切って開催しました。

地元の方々を中心に、三十名以上の皆さんに参加いただき、紙芝居を見たり、川柳を即興で作って発表していただくなど、大いに楽しまれました。

赤穂仁泉病院深井院長による「認知症相談コーナー」を設置し、日頃の悩みなどを相談していただきました。

今回の開催場所は風情も良く、次回もまた是非参加したいとの感想を多くいただきました。

通所事業始めました

のぞみの家

今年度から通所事業を実施しています。現在六人の元利用者が利用されており、通所では健康面や金銭面、社会生活面など、訪問では生活面のフォローなどを行っています。地域の関係機関とも連携し、通所利用者のスムースな地域移行支援を実施しています。

神戸市障害者スポーツ大会に参加しました

あけぼのの家

とても広い競技場に初めて立つ利用者の方もおり、大勢の人の中で緊張しながら競技に参加しました。メダルを取れた利用者の方はとても嬉しかった様子で、銀メダルだった利用者の方は「来年は金メダルを目指して頑張りたい」と来年の大会参加に意欲を見せられていました。

赤穂精華園祭の開催

赤穂精華園

五月十日(日)、今回から児童寮前の芝生会場にて、リニューアルした第三十八回赤穂精華園祭が、さわやかな天候に恵まれ、地元自治会をはじめ協力団体や各種ボランティアなどの協力のもと、盛大に開催されました。

赤穂高校ブラスバンド部の元気よいファンファーレで始まり、延べ三千名の来園者を迎え、楽しい一日を過ごすことができました。

第九回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会に参加しました!

出石精和園

サッカーチーム、チーム、コーニャ出石が四チームからなるリーグ戦にて、二対一という結果で、見事〝準優勝〟に輝きました!ボランティアも参加して大変盛り上がり、今後もいろいろな大会へチャレンジし、交流を深めていきます。

丹南精明園

陸上競技ソフトボール投げの部で、あゆみ男子棟の小林栄司さんが堂々の〝一位〟を獲得しました。「頑張って投げたから肩が筋肉痛や。全国大会も行きたいなぁ」と照れくさそうに話されていました。

小野起生園

車いすの部五名、立位の部に一名が参加し、一人ひとりがメダル獲得・入賞を目指して練習に励み、見事〝全員メダル獲得!!〟という素晴らしい結果をおさめる事ができました。

施設だより

明峰庵本店 開店十周年

丹南精明園

丹南精明園では、利用者がその人らしく生き生きと過ごせるように、「生活する場」、「働く場」、「ふれあう場」を提供しています。明峰庵本店は、利用者が地域の一員として仕事をし、生活に潤いを感じられる「働く場」として平成十八年五月に篠山市内に開設されました。関係団体や地域の多くの皆様に支えられ、今年開店十周年を迎えることができました。「うどんの日」である七月二日には、開店十周年記念として、特別メニューを販売しました。また、久保会長にご来店いただき、スタッフにねぎらいと激励のお言葉をいただきました。今後も就労支援をとおし、利用者が地域で自立した生活が送れるようサポートしていきます。季節に合わせたメニューも提供していますので、近くにお越しの際は、是非打ちたてうどんをご賞味ください。

こいのぼりの集いに参加

清水が丘学園

児童福祉週間に合わせて五月九日(土)、明石公園で児童養護施設や乳児院で生活している子どもや職員が集まり、「第二十四回おーい集まれ!こいのぼりの集い」が開催されました。各施設で作成したオリジナル鯉のぼりの展示、子どもたちが好きな模擬店やゲームコーナー、スタンプラリーなどが催され、楽しい一時を過ごすことができました。

観桜会を開催しました

小野起生園
小野福祉工場

去る四月二日(木)、起生園・福祉工場合同の観桜会を開催しました。新年度はじまってすぐの行事ですが、利用者と職員が一緒になって桜を見ながらお弁当を食べることで、「今年度も頑張ろう!」と決意も新たになります。また、お天気にも恵まれ、三年連続で満開の桜の下で開催できました。利用者の方々の笑顔は、桜の花にも負けずに輝いているように見えました。

にじいろカフェ(認知症カフェ)オープン

たじま荘

六月二十五日(木)、第一回にじいろカフェを開催しました。

認知症のご本人三名、認知症の方を介護されているご家族四名、その他地域包括支援センター職員など計十四名の参加がありました。

認知症介護の苦労話をざっくばらんに語っていただき、当事者同士の心かよう交流の場となりました。

にじいろカフェは、二ヶ月に一回開催します。

森のぱん屋さんひまわり一周年!!

ひまわりの森

「森のぱん屋さんひまわり」は、皆さまのおかげをもちまして、六月に開店一周年を迎えることができました。ありがとうございます。

今年は販路の拡張にチャレンジしており、現在では十七か所の移動販売先を確保しました。

皆さまも国道九号線を通られる際は、是非お立ち寄りください。写真の交差点近くです。

あとがき

生き物が好きな娘のために、メダカを飼い始めました。五月には小さかったメダカも今は立派になり卵を産んで、稚魚たちも大きくなりました。

水辺の生き物を見ていると、なんだか涼しく感じますね。

さて、次回の「青い鳥」は十月発刊予定です。

暑い日が続きますので、体調管理には十分お気をつけ下さい。

ミウ

表紙・タイトル写真
『あわじ荘と瀬戸内海』

この度、当院ロボットリハビリテーションセンターは、上肢を欠損した子どもの発育に有用な筋電義手の普及を図るため、**小児筋電義手バンク**を設立しました。

訓練用として貸し出す筋電義手を購入するための寄附や、成長に伴いサイズが合わなくなり不要になった小児筋電義手の提供を働きかけています。

ご寄付や事業の内容に関するお問い合わせ

兵庫県立リハビリテーション中央病院

管理部経営企画課　担当職員　長谷川・山里

住所 兵庫県神戸市西区曙町1070
TEL 078−927−2727　内線(2220)又は(2222)
FAX 078−925−9203
http://www.hwc.or.jp/hospital/pdf/gishu-bank.pdf

おんせんとうまいもんで
お・も・て・な・し!

1泊2食6,450円〜
浜坂温泉保養荘
〒669-6702 兵庫県美方郡新温泉町浜坂775
(0796)82−3645